

策 源

作戰軍の背後に有する生存上の資源地なり。攻勢作戰に在りては通常國境の近傍に在る首要なる都府又は上陸地とす。例へば日露戰役に於ける日本軍の大連、露軍の哈爾濱等の如し。

作 戰

通常戰略單位以上の兵團の某期間に互る對敵行動の總括的名稱にして、兵團の集中、搜索、行軍、駐軍、戰鬪及び之等に必要なる交通及び補給等を總稱す。而して國軍主力の作戰を主作戰と謂ひ一部の作戰を支作戰と謂ふ。例へば日露戰役に於て主作戰を滿洲に支作戰を樺太及び北韓に行ひたるが如し。

作 戰 計 畫

戰略上の籌策に基き一作戰を如何に指導すべきやの策案を定め、且つ之が遂行に必要なる諸般の準備に關し其の大綱を企畫したるものにして、作戰發起に先だち大本營（平時に於ける參謀本部）軍司令部等に於て作爲するものとす。

作 戰 地

戰地の一部分にして彼我兩軍の作戰する地域を謂ふ。兩國軍中に數軍ありて各異なる地域に作戰するときは作戰地の數も亦之に應ず。

作 戰 地 境

軍以上に於て其の直轄部隊の爲兵力の使用、宿營、給養及び補給の關係及び警戒の責務を律する目的を以て規定配當せる地域の境界を謂ふ。（戰鬪地域の部參照）

作 戰 目 標

作戰遂行の爲の目標を謂ふ。即ち敵軍の主力又は戰略要點の如きものなり。例へば日露戰役初期に於ける日本軍の作戰目標は遼陽なりしが如し。

撤 毒 地 域

毒瓦斯を撤布し之を毒化せる地域を謂ふ。

シ

持 久 戰

敵を欺騙し或は之を抑留し又は時間の餘裕を得んとする場合に行ふ戰鬪を謂ふ。

【說明】

1 持久戰は決戰を遷延するか或は時間と距離とを得るか或は特別の目的を達するに在るが故に其の意義に至りては持久戰の戰略的なる戰術的なるによりて異なる所あり。

2 戰略的持久戰は特別目的達成の爲行はるる戰鬪にして敵をして不利なる狀況、位置に立たしめ、或は我を不利なる位置に立たしめざる爲に行ふ戰鬪とす。之が爲一時戰術的決戰を併せ行ふ。例へば次の場合の如き之なり。

イ、敵を驅逐して我が爲に緊要なる地點を奪取す。

ロ、敵の此の如き要點を取らんとするを妨ぐ。

ハ、敵を某所に緊留す。

ニ、敵を迷惑し若しくは之れに痛痒を感せしむ。

ホ、敵を阻止して我が爲に時間の餘裕を得。

ヘ、敵情を偵察す。

3 戰術的持久戰は單に時間と距離とを得るを目的とし決戰を避くるに在り。故に戰鬪を企つるは其の目的を達せんとする手段に過ぎず。即ち我は某任務を完うすれば敢て戰鬪を好まず、戰鬪を爲すも敵を殲滅するを本旨とせざるを以て決戰を行はざるを通常とす。

4 之を結論的に述べれば次の如し。

イ、戰略的決戰は本來の性質攻撃の續行に在るに對し、戰略的持久戰は本來の性質

射撃効果
射撃效力
縦隊追撃
集中内容
主攻地區
主攻方面

を持続し或は之に依りて攻勢移轉を容易ならしむるものを謂ふ。而して通常諸方向に對して堅固に工事を施すものとす。
射撃の爲生ずる殺傷、破壊等の力（物質的損害）に基く效力を射撃效力と謂ひ、之に精神的效果を併せ考慮するものを射撃効果と云ふ。
高級指揮官の部署に依り行ふものを謂ふ。
作戰の發起に先だち作戰軍を其の目的に隨ひ所望の地域に集むるを謂ふ。
退却に際し先づ一部隊をして後方又は側方に陣地を占領して追撃する敵を拒止せしめ退却部隊をして其の掩護に依り敵と離脱せしむるを謂ふ。
主力を以て行ふ攻撃を謂ふ。（助攻の部参照）
攻撃の重點の向ふ敵の正面を謂ふ。
主攻撃を指向する方面を謂ふ。

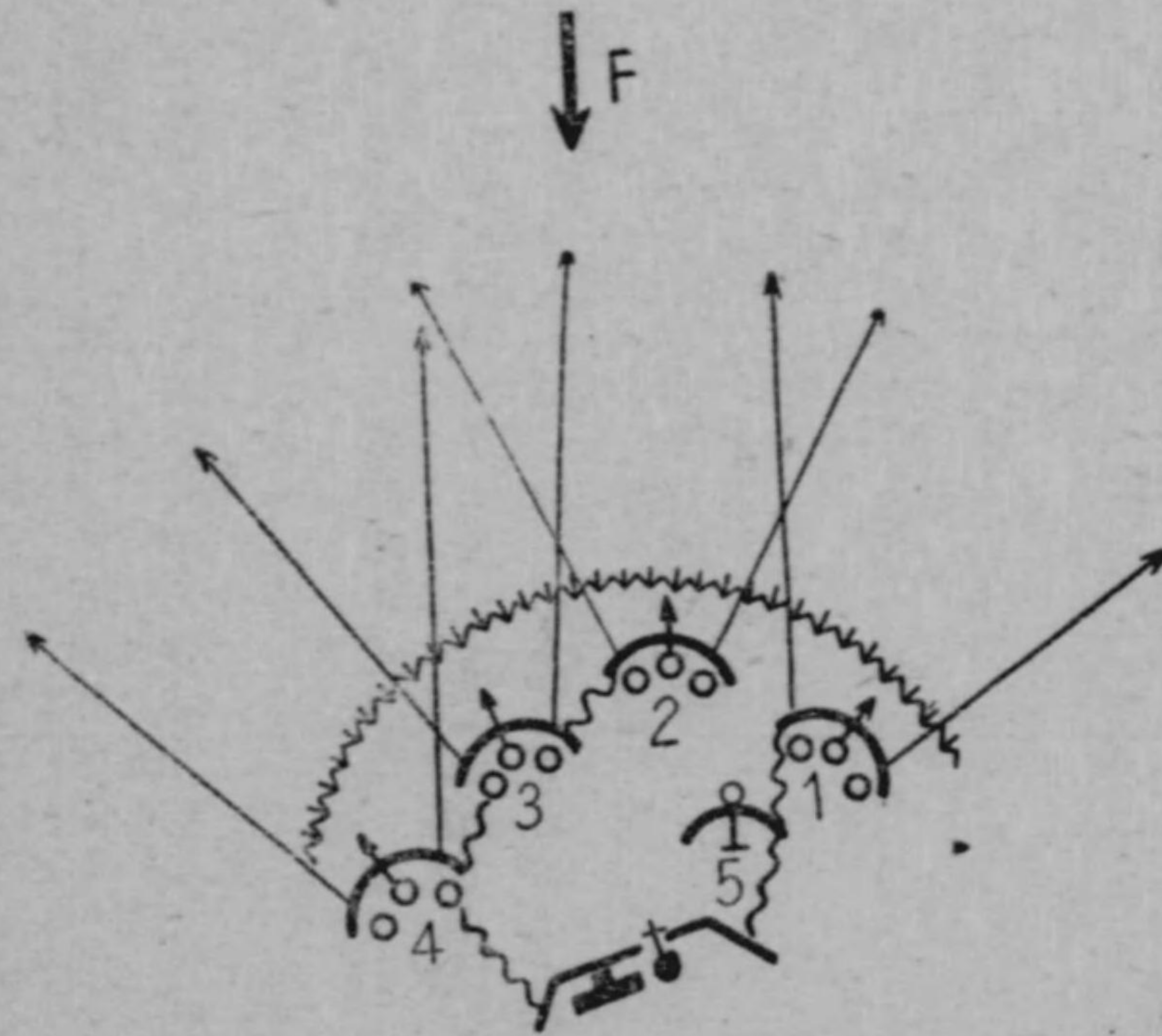


【説明】

其の方面に於て勝利を得れば全般の勝利を獲得し得べき方面なるを要し、此の方面に對し兵力、火力の主要部を集中するものとす。

支隊
主動の地位
支點
支點

守勢的に在るが故に、戰略的持久戰に於て攻撃動作を行ふは一時の手段にして其の任務を達成すれば本然の性質に復歸するものとす。
口、戰略的決戦は即ち攻勢作戰にして戰略的持久戰は攻勢作戰と守勢作戰とを併用す。
特別任務に基き一時獨立して動作すべき差遣隊を謂ふ。通常軍若しくは師團等より派遣せらる。
敵をして我に追隨せざるを得ざらしむる状態に導き得たるを謂ふ。
小隊又は若干分隊を以て獨立性を有する如く編成せる陣地を謂ふ。
防禦陣地中戰鬪の支撐たるべき要地若しくは特に設備せる地點にして頑強なる抵抗



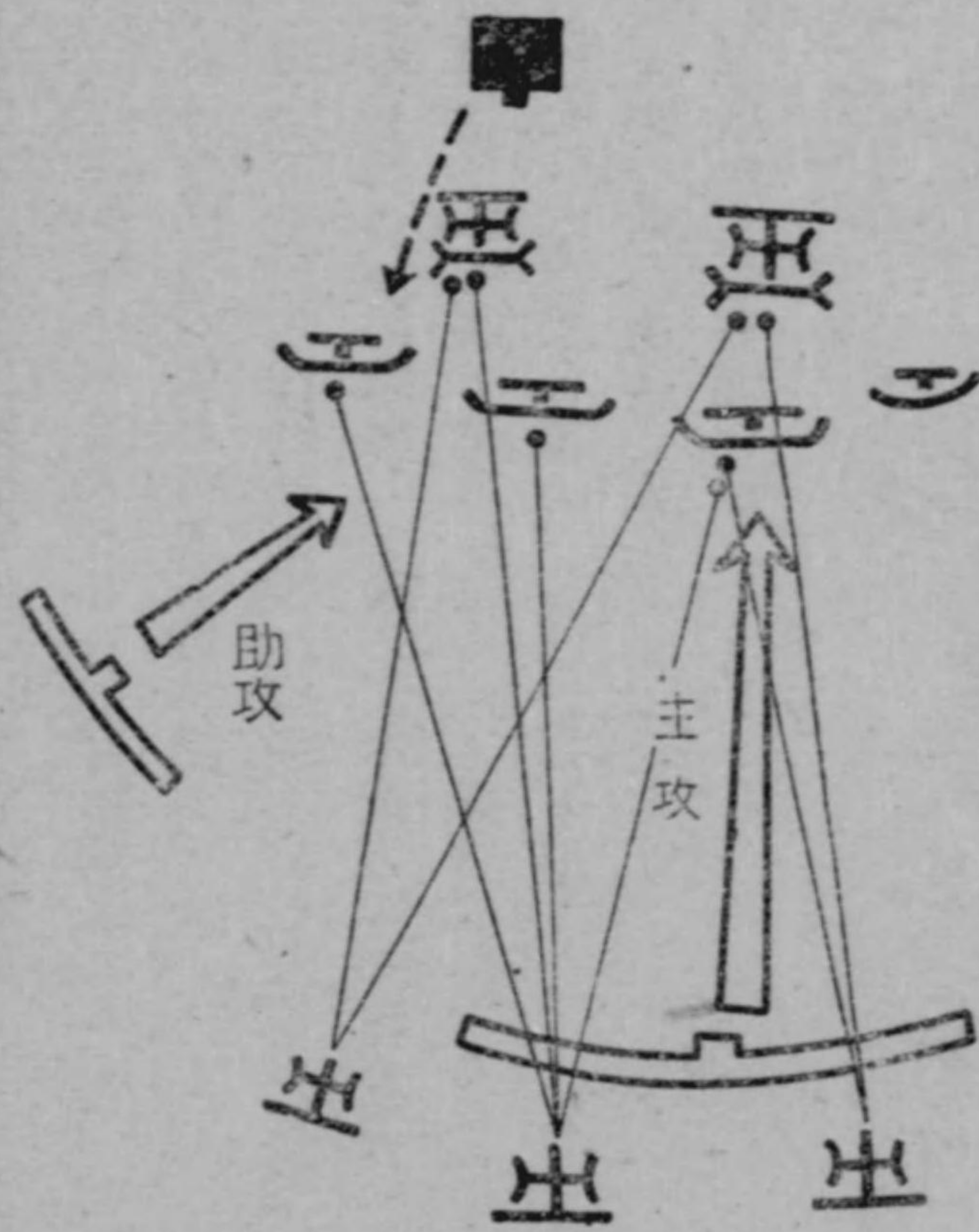
（要圖 小隊を以て編成せる支點の一例を示す）

守勢鉤形
状況判断

「攻勢鉤形」の部参照。

諸種の状況を較量し以て最も有利に我が任務（目的）を達成すべき方策を判定するを謂ふ。而して之が基礎となるものは主として任務（目的）敵情及び地形にして彼
我が状態、周囲の關係、季節及び天候等も亦之が資料たるべし。
主攻を容易ならしむる目的を以て他の方面に向ひ一部の兵力を以て行ふ攻撃を助攻
と謂ふ。

助攻



陣地戦

我が國軍に於て陣地戦と稱するは堅固に設備せられたる數帯陣地の攻防を謂ふ、然れども外國軍に於ては一致に堅固なる陣地に膠著して行ふ攻防戦を陣地戦と稱す。

陣地の鎖鑰

陣地内に於て其の得喪は全陣地の運命に影響を及ぼすが如き重要な地點を謂ふ。例へば旅順に於ける二〇三高地の如し。

陣地判断

地形判断の一種にして我が採用せんとする陣地に就き全般の状況及び地形上の特質を研究して、如何に軍隊を配備し陣地を構成すべきやを判断するを謂ふ。

ス

随伴砲兵

歩砲兵の協同を最も緊密ならしむる爲第一線歩兵附近に進出して戦闘する砲兵にして砲兵指揮官の指揮に屬す。

セ

制空

攻撃若しくは空中戦闘に依りて敵航空機を撃滅し、又は少くも之を驅逐し、或は敵飛行場を破壊し、以て永續的若しくは一時的に我が空中行動の自由を獲得するを謂ふ。

制高地點

敵を瞰制（見下す）し得べき地點を謂ふ。未知の土地（熟地の反對）を謂ふ。

生毒地

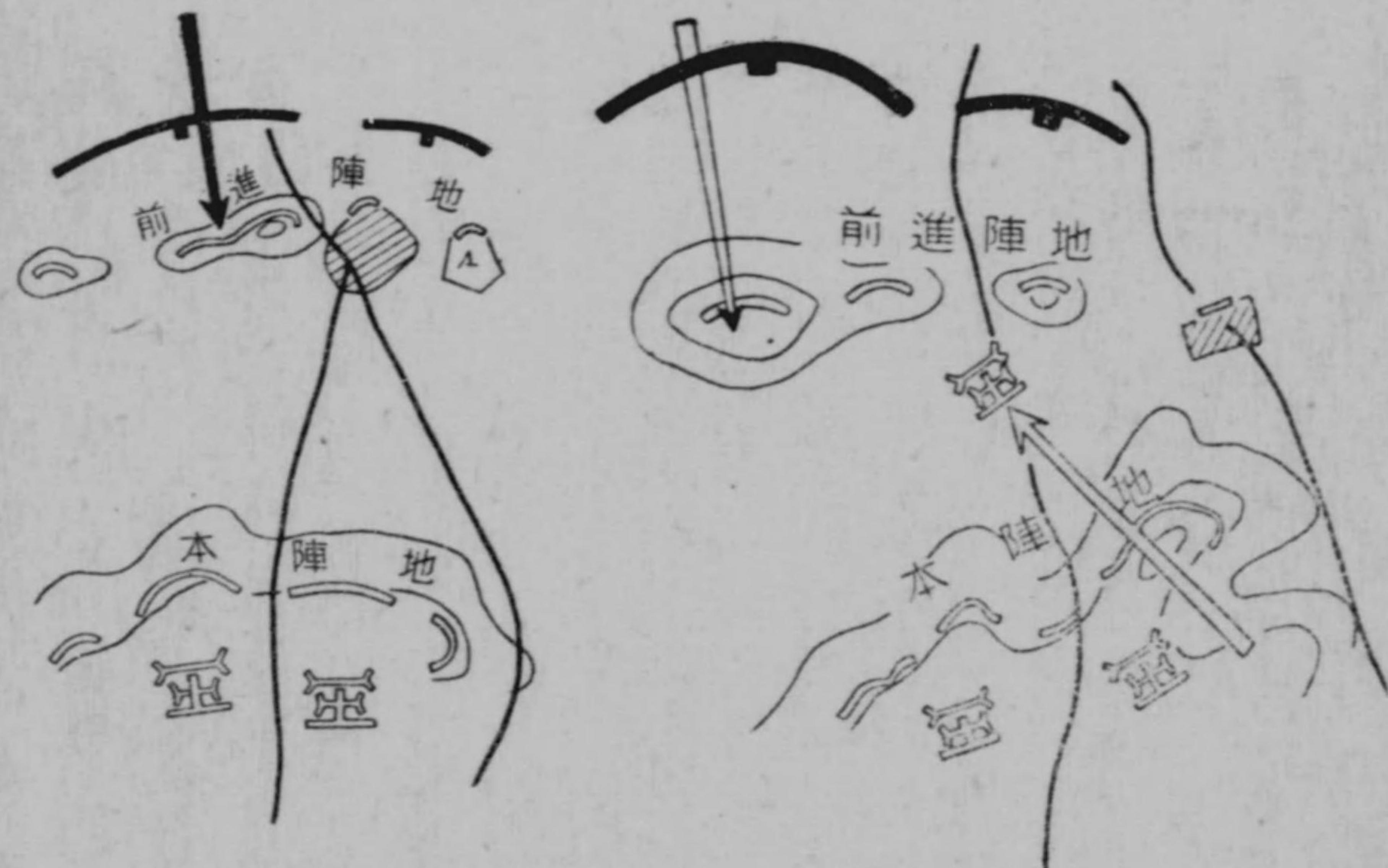
毒瓦斯に對し消毒、除毒又は之を掩覆する等の處置を謂ふ。

接敵

戰場に於ける軍隊が攻撃の爲敵に向つてする運動中展開小隊に在りては（火線の構成）に至るまでのものを總稱す。

戦果擴張

攻撃に於て第一線部隊の收め得たる戦闘の成果を擴大するを謂ふ。



【説明】

其の一 前地に在る要地を過早に敵手に委せざるを目的とするとき

其の二 敵をして展開方面を誤らしむるを目的とする場合
敵をして本陣地と誤認せしめ之に對する攻撃展開を完了したる後我は攻勢に出でんとするにあり

其の三 敵をして我が主陣地に近接する動作を困難ならしむる場合
多くは時間の餘裕を得んとするが如き場合に應ぜらる

戦術
戦術單位
戰場
前進陣地

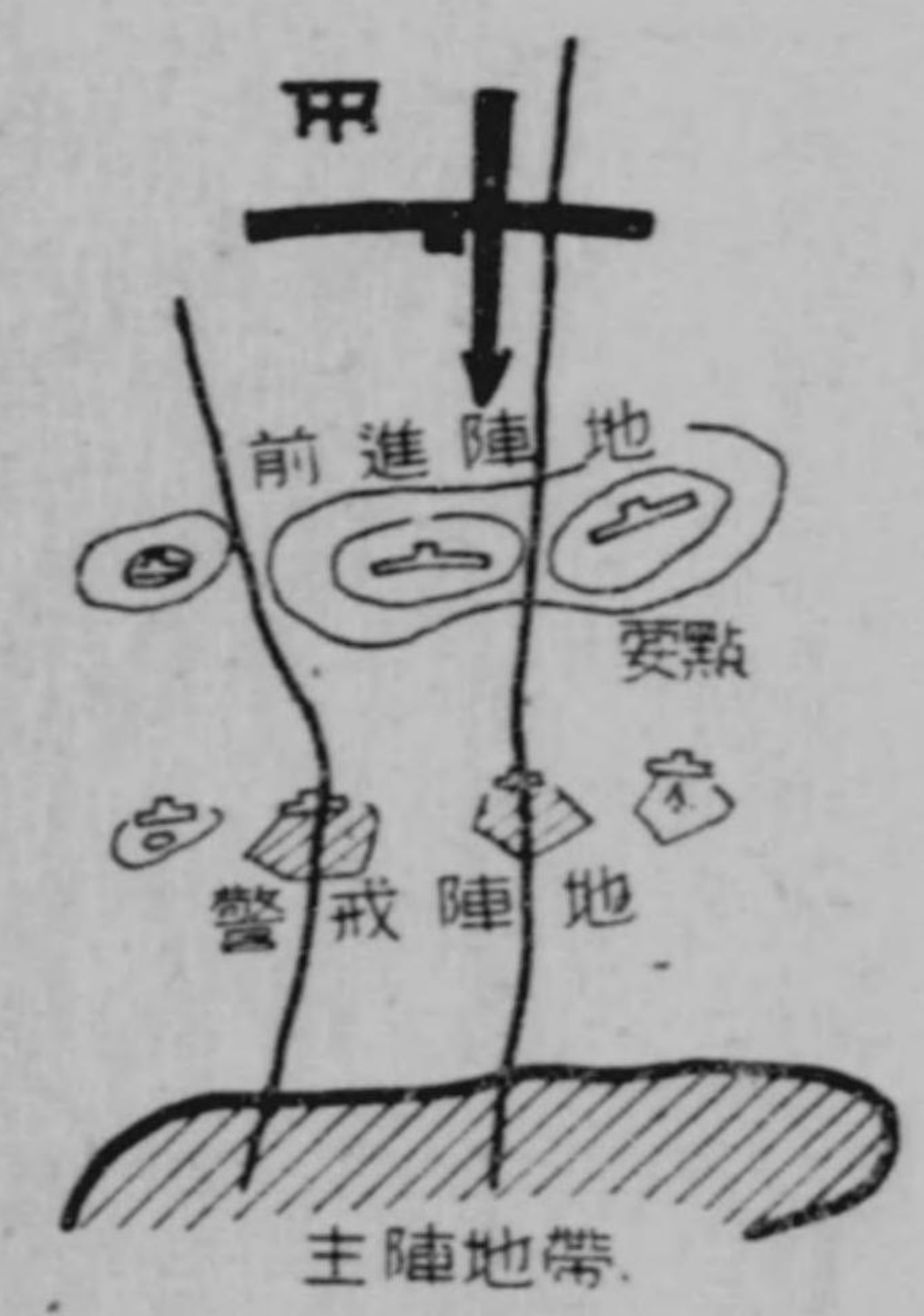
戦闘實施の方法なり。而して行軍、宿營等の實施も亦戦術の範圍に屬せしむるを普通とす。右二者の範圍は其の分界明確ならざる場合あり、又戦術は兵器の進歩に伴ひ絶えず變遷すべきものなるも、戰略は直接に其の影響を蒙らざるものとす。戦術上兵種の特性を發揮し得べき最小單位にして歩兵大隊、騎兵聯隊、砲兵大隊是れなり。

作戰地の一部にして兩軍或は其の一部の現に戦闘動作を交ふるの地及び已に交へたる地を謂ふ。故に作戰地には數多の戰場を包含す。

1. ①前地に於ける要點の過早に敵手に歸するを妨げ②或は敵をして其の展開方向を誤らしめ③或は敵の我が陣地に近接する動作を困難ならしむる等の目的を以て主陣地の前方に一部隊を派遣して陣地を占領せしむ、之を前進陣地と稱す。

2. 之に用ふる兵力は其の目的及び地形等により差あるも必要の最少限度に止め其の編組及び指揮官の選定には慎重なる考慮を拂ひ特に明確なる任務を附與するものとす。

3. 時として警戒陣地の全部若しくは一部をして前進陣地の目的を兼ねしむることあり。



戰 争

戰 線

前 線

戰 地

戰 闘 司 令 所

戰 闘 正 面

戰 闘 序 列

戰 闘 單 位

戰 闘 地 域

國家が他國に對し其の國是を貫徹する爲に採るべき最後の手段にして兵を用ふる國家間の争闘を謂ふ。

展開して戰闘に従事する第一線歩兵部隊の線を謂ふ。例へば師團より云へば各歩兵旅團は一の戰線を成形し、旅團より云へば歩兵兩聯隊は一の戰線を成形す。

前の線を意味し多くは第一線歩兵大隊より成る線を示す。而して更に其の前方のものゝ區別して云ひ現す必要あるときは最前線なる語を用ふ。

戰爭の實施せらるる地域なり。而して戰地と内地との境界は戰時給養規則の適用及び從軍年限加算等の範圍に關係あるを以て之を明確ならしむるの必要あり。

師團長が戰闘間特に彼我の狀況を觀察するに便なる地に設くるものにして所要の幕僚等を隨へ此處に位置するものとす。

戰闘の爲第一線に排列する兵力の領有する正面にして縦長區分とは戰闘の爲兵力を縦方向に配置する區分を謂ふ。

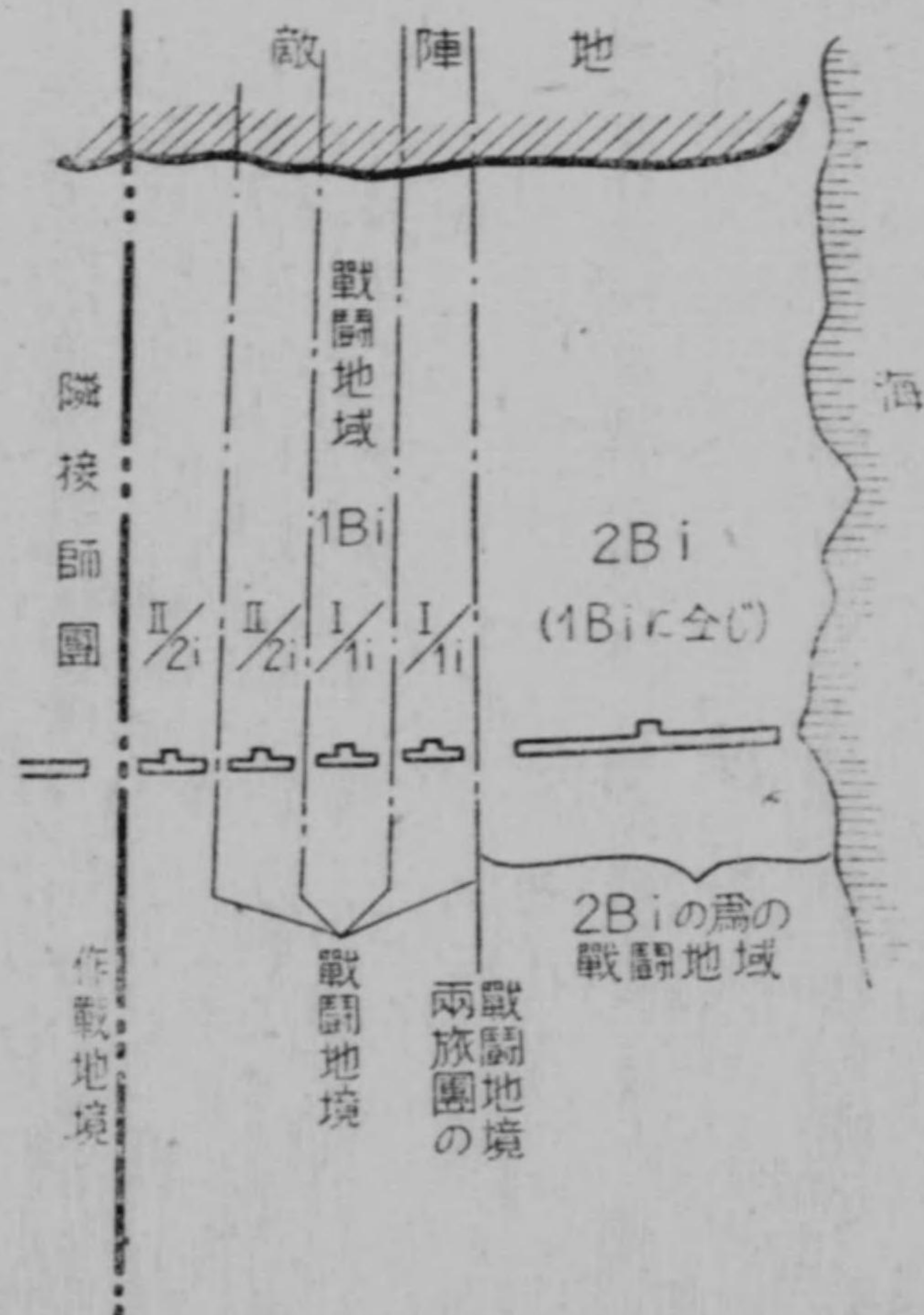
戰時若しくは事變に際し 天皇の令する作戰軍の編組にし、て之に依り統御、經理及び衛生の關係を律するものとす。

志氣の結合最も堅固にして其の長を核心とし戰闘すべき單位を謂ふ。我が國の歩兵、騎兵、砲兵の中隊是なり。

戰闘に際し師團以下が部下各部隊に配當する地域の境界を謂ふ。
(次項説明參照)

戰 闘 地 域

戰闘地域の境界を謂ふ。
【説明】



戰 闘 の 爲 の 前 進

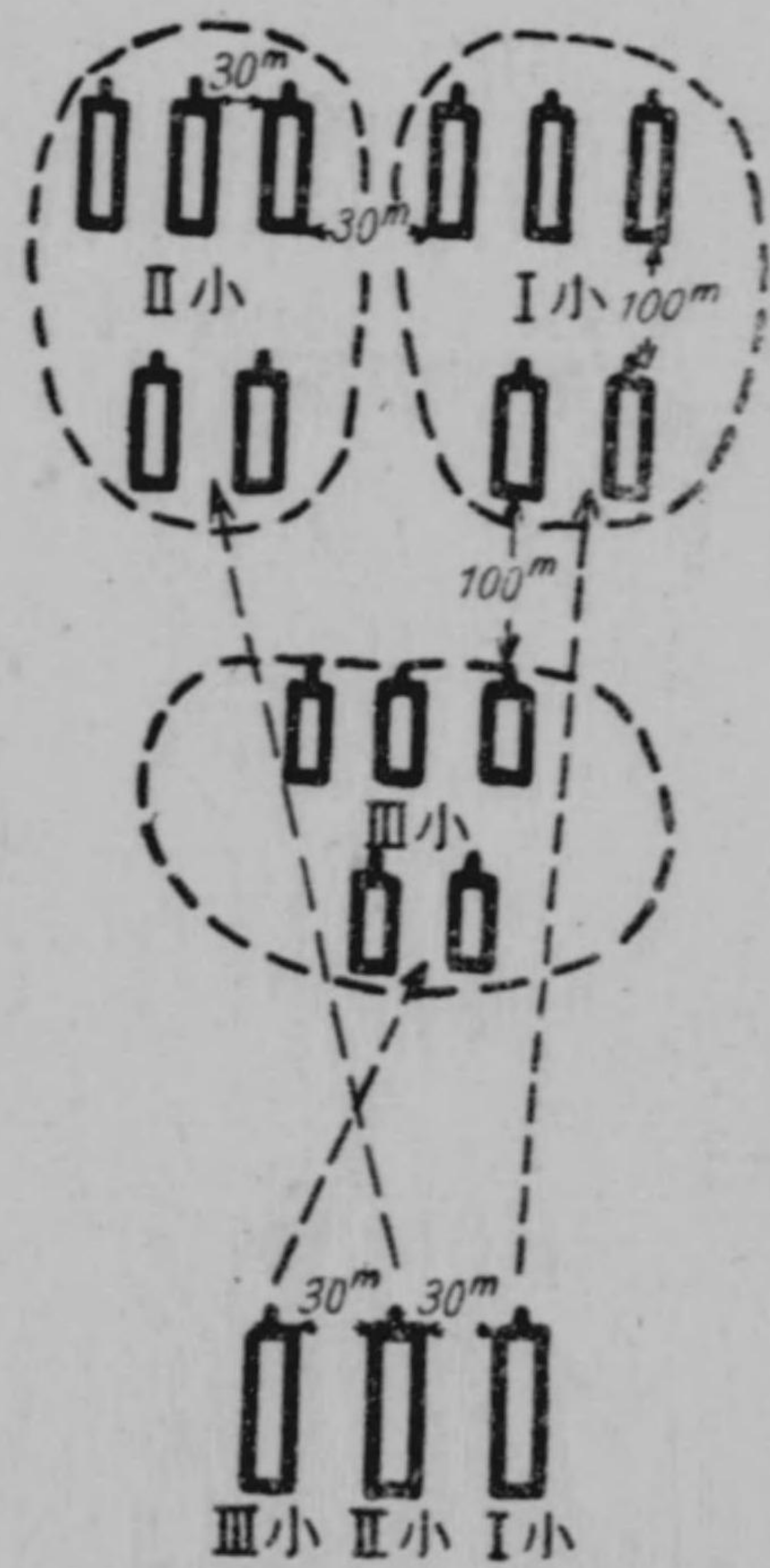
攻撃に於て行軍より適時戰闘準備の態勢に移り有利なる態勢に展開を指導し得る如く隨時適當なる部署を爲しつつ前進するを謂ひ、歩兵に在りては其の上級部隊の集合隊形を、解き或は疎開したる時機より自己の展開又は火線構成に至る迄の行動を謂ふ。

戰 略

兵團運用の方策を謂ふ。即ち戰爭を計畫し其の實施を統裁し、兵團行動の爲方向、

疎開戰團

戰團實行の爲中隊を疎開し、中隊展開せば小隊長をして小隊の運動及び射撃を統轄せしめ又小隊長の意圖に基き各分隊をして疎開して戰團せしむる制式及び法則即ち



戦況に基き中隊及び小隊が小隊又は分隊間の距離間隔を開きたる隊形を一律に疎開と稱す。
分隊の距離間隔を開きたるもの、小隊の間隔を開きたるもの。

疎開

【説明】

偵察といふは現在あるものを審かにせんとするを謂ふも、搜索と實行上に大差なし。

戰略單位

目的時機並びに場所等の關係を定むるものなり。
統御經理及び衛生の各機關を備へ數日間獨立して作戰し得る諸兵連合の建制部隊にして日々其の長の直接命令に依り進退し得べき最大單位を謂ふ。我が國の師團之なり。
縱隊追撃に同じ。

戰略追撃

戰略上の要機を具備する線にして通常作戰地を貫く廣大なる天然地境又は所要軍事施設を有する國境或は要塞線等を謂ふ。例へば日露戰役に於ける鴨綠江、世界大戰に於ける佛國東方國境要塞線の如し。

戰略要線

戰略要點

戰略上重要な機能即ち要機を備へたる地點を謂ふ。例へば都府、要塞、根據地或は大集中地の如きもの之なり。

ソ

裝甲部隊

通常戰車又は裝甲自動車を以て成る部隊を謂ひ時として裝甲列車をも含むことあり

【説明】

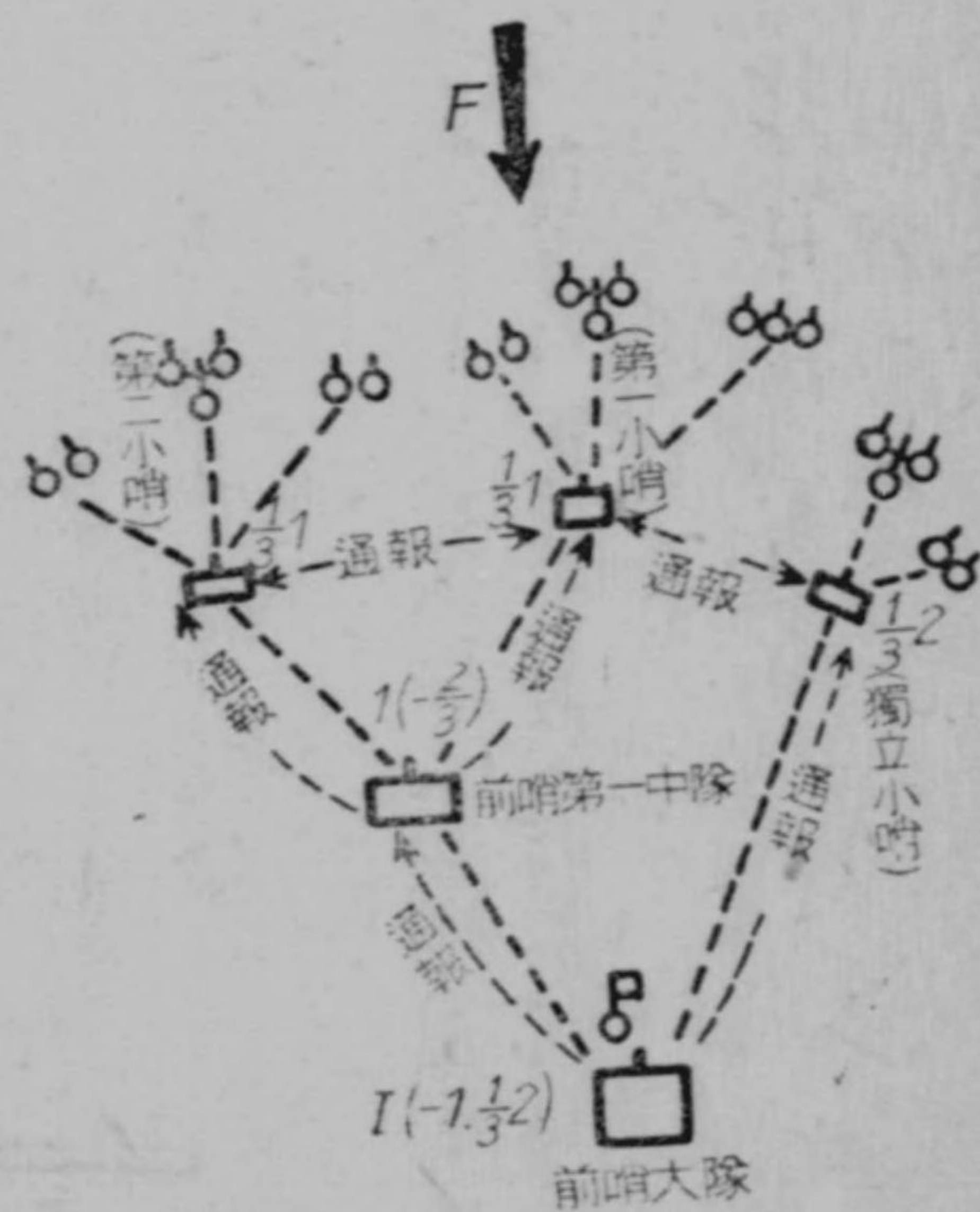
鋼板を以て外部を覆ひ敵の銃、砲彈に對し乘員を防護する裝置をなせるものなり。

搜索

狀況を明かにせんとする手段にして通常有無及び變化の如何を知らんとするときに用ふ。

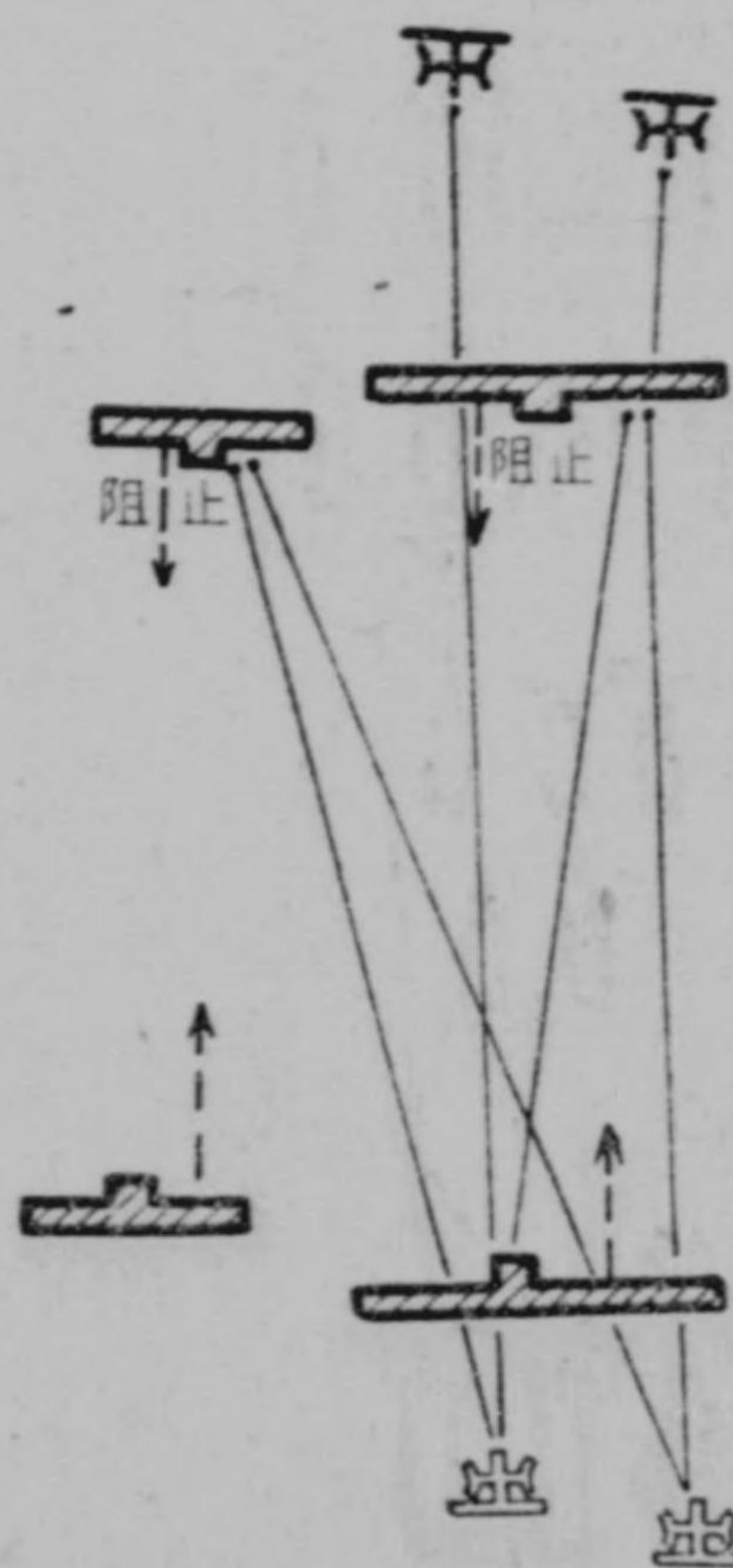
テ
 挺身隊
 梯隊(梯團)
 敵情判斷
 展開
 展開準備位置

別動隊の部参照。
 部隊を梯次に配置したる態勢に於ける前後の各部隊を謂ふ。
 敵の動作又は兵力配置或は其の企圖等を研究し所要の判斷を爲すを謂ふ。
 軍隊が行軍縱隊より其の長徑を短縮し一地若しくは數地に於て横廣の状態を成形するを謂ふ。
 攻撃の爲敵軍地前に到着し爾後の展開に便なる如く警戒隊及び本隊を配置すべき位置を總稱す。



阻 止
 地形判斷
 ツ 報
 通 報

此の戦闘方式を疎開戦闘と稱す。
 前進する敵歩兵の行動を妨害又は阻止し或は之を殲滅するを謂ひ、主として砲兵の戦闘手段に屬す。



某目的に基き之に關する範圍の地形を研究し所要の判斷を爲すを謂ふ。
 同等の位置又は命令系統を異にする各部隊相互間或は上級指揮官より下級指揮官に對し、敵情、地形其の他自己の行動等に就いて通知するを謂ふ。

ト

統一指揮

一定の方針に基き指揮官が其の指揮下軍隊を自己の意圖の如く確實に掌握指揮するを謂ふ。

統轄

指揮官が自己の企圖を部下に明示して其の意圖の如く行動せしむる如く之を監督指導し、以て其の全軍を遺憾なく統轄掌握するを謂ふ。

統帥

大なる軍隊を指揮運用するを謂ふ。又統帥術若しくは統帥機關を意味することあり。

獨斷專行

事急を要し上級指揮官の指示を受くるの邊なき場合に於ては、上官の意圖を明察し大局を判斷して狀況の變化に應じ自ら其の目的を達し得べき最良の方法を選び、機宜に適する如く處置するを要す、之を獨斷專行と謂ふ。

突擊

白兵を以て猛烈果敢敵中に突入するを謂ふ。

【説明】

突擊は敵と格闘して之を殲滅せしむるを目的とす。之が爲には其の動作を容易ならしむる爲砲兵、機關銃等の突擊掩護射撃、飛行機の爆撃等の協力を以て其の効果を大ならしむるものとす。

突擊地區

部隊の突擊を行ふ敵の正面を謂ふ。

ナ

内線作戰

敵の作戰軍に對し被包圍的若しくは被挾撃的關係位置に在りて作戰するを謂ふ。

配屬

或る部隊内の若干部隊を一時他の指揮下に屬せしむるを云ふ。

配置

軍隊又は兵員を分配、配置せしむるを云ひ配備と概ね同一なるも配置は單に位置に關する事多し、例へば歩哨の配置又は監視部隊或は駐止斥候の配置と云ふが如き之なり。

配備

軍隊を戰鬥準備の姿勢に配備するを謂ふ。例へば前衛の各種戰護配備又は防禦配備の如し。

白兵戰

白兵即ち刀、銃劍、槍等の格闘用兵器を以て敵と接戰格闘するを謂ふ。

フ

不期戰

彼我兩軍豫期することなく全く不意の衝突より發生する戰鬥を謂ふ。

部署

自己の指揮下に在る軍隊を區分し之に任務を附與するを謂ふ。

分割

或る部隊を分割し當該部隊の指揮官の指揮系統を一時離るるを謂ふ。

進屬

展開を迅速ならしむる等の爲行軍縱隊を分解し數個の縱隊として進むを謂ふ。

分屬

或る部隊の内若干を一時他の指揮官に屬せしむるを謂ふ。

分置

或る部隊が一時分れて位置するも其の指揮系統に何等變化なきを謂ふ。

別 動 隊

我が本軍に直接關係なく獨立して行動し諸種の手段を盡くして本軍の作戰を有利ならしむる如く動作する部隊を謂ふ。而して之に用ふる軍隊は正規の軍隊より成ることあり、或は不正規軍より成ることあり、又特別の任務を有し遠く本軍を離れ全然獨立して動作する部隊は別動隊の一種にして、之に挺進隊の名を用ふることあり、例へば日露戰役中沙河對陣間に於ける長沼及び長谷川兩挺進隊の如き之なり。

便 衣 隊

敵軍後方の擾亂又は要人暗殺等の目的を以て、軍服を著用することなく一般地方人（土民）と同様の服裝を爲し武器を隠匿して携行しある者を謂ふ。

編 制

軍令に依り規定せられたる國軍の組織を謂ふ。例へば歩兵聯隊の編制と云ふが如し。編制に基き軍隊を組成するを謂ふ。又動詞として使用せらる。例へば「軍を編成す」と謂ふが如し。

編 組

作戰上の必要に應じ建制の軍隊又は編制上の軍隊を適宜に編合するを謂ふ。例へば前衛の編組、前哨の編組と謂ふが如き之なり。

ホ

包 圍

敵の正面と側背とを併せ攻撃するを謂ふ。包圍を行ふには敵の正面と側面若しくは其の背後とを併せて之を攻撃する爲準備行動として數縱隊の併進に依りは後方部又

防 空

隊の加入に依り展開に先だちて之を準備するを原則とするも、既に展開せる後と雖も地形特に有利なるか若しくは夜間其の他敵の目視を避け得る場合等狀況之を許せば部隊の移動により之を行ふことあり。空中よりする敵の攻撃に對し領土、都市、要點、軍隊及び之に附隨する各種施設を防護すべき百般の企畫處置等を稱す。

報 告

一任務を有する者より其の任務を與へたる上官、又は直接任務を與へられざるも命令系統を有する上官即ち直屬系統の上官、又は軍隊區分に依り指揮權を有する上官等に對し任務に關する實行の結果に就いて申報するを謂ふ。

防 止 正 面

防禦に於て決戰を企圖せざる方面に於て防止に任ずる部隊の領有する正面を謂ふ。

方 面 軍

二個以上の軍（一部獨立師團なることもあり）を同一地方に作戰せしむる場合最高統帥の下に特に一機關を置き各軍を統一せしむるものにして、要すれば各軍作戰地域の後方地域内に於ける補給民政等を擔任せしむることあり。

方面軍とは通常方面軍司令部、若干の軍（一部獨立師團なることもあり）騎兵集團、航空隊、交通部隊及び方面兵站部等より成るものとす。

歩 兵 火 網

陣地を占領せる歩兵部隊が攻撃し來る敵を陣地前に殲滅する爲其の有する小銃、輕機關銃並びに機關銃及び歩兵砲等の十字火を以て前面一帯の地域を毫も間隙を生ぜ

歩兵直接協同

ざる如く網狀に蔽ひたるものを云ふ。
歩兵の直接支援即ち歩兵の行動に直接關係ある敵歩兵又は重火器等の阻止並びに障
碍物及び側防機能の破壊等に任ずる砲兵の協同動作を謂ふ。

迷 彩

物體の認識を不能若しくは困難ならしめ或は之を誤認せしむる爲其の物體の表面に
色彩を施すを謂ふ。

野 戰

要塞戰に對し使用せらるる兵語にして要塞の攻防以外の作戰を謂ふ。

陽 攻

陽には攻撃動作を爲し敵をして眞面目の攻撃を受くる如く感せしむるを陽攻と謂
ひ、諸種の行動に依り敵をして我が企圖に關する判断を誤らしむるが如きを陽動と
謂ふ、共に敵を欺騙するの行動なり。

連 絡

各級指揮官及び各部隊相互間に於て意志の疏通を圖り且つ狀況を知り合ふこと並び
に此の目的の爲所要の手段を講ずるを謂ふ。

著 者 紹 介

陸軍士官學校卒業、砲兵中隊長、
中北支二部隊長トシテ轉戦、現在大
本營陸軍報道部々員、陸軍少佐。

省	軍	陸
十一月三十日	認 可	

出 文 協 承 認 ア 370068 號

國防科學叢書 15
戰 略 戰 術

初版印刷日 昭和十七年十二月二十日
初版發行日 昭和十八年一月八日
(初版四〇〇〇部)

著 作 者 平 櫛 孝

發 行 者 石 山 皆 男

印 刷 者 神 尾 福 太 郎

發 行 所 ダイヤモンド社
東京市豊町區霞ヶ關三ノ三
振替東京二五九七六
電話銀座四一五五

日本出版文化協會會員番號一一六五一〇號
東京神田區淡路町二ノ九
配給元 日本出版配給株式會社

定 價 二 圓 三 十 錢

(大島製本所納)

すまげ上申へ換取御にて擔賣料送社當らたしまりあが品の等丁亂・丁落し若

國防科學叢書 全三十二卷

一	日本國防學	花見朝己
二	國家總力戰論	土屋喬雄(二・三〇)
* 三	國防法學	中村彌三次
四	國防地政治學	小牧實繁
五	國防國土學	吉田秀夫(一・九〇)
六	政治と戰略	黒田禮二
* 七	國防經濟學	麻生平八郎
* 八	戰爭と資源	延兼數之助(二月豫定)
* 九	戰爭法	前原光雄(一月豫定)
* 一〇	宣傳戰	中島鈿三(三月豫定)
二	山鹿素行の兵學	清原貞雄
三	クラウゼヴィッツの兵學(上)	坂部護郎(一・九〇)
* 三	クラウゼヴィッツの兵學(下)	坂部護郎
四	陸軍	武田謙二
五	戰略戰術	平櫛孝(二・三〇)
六	電撃戰	大場彌平
七	野戰兵器	莊司武夫(二・三〇)
八	海軍	富永謙吾
九	海軍戰略	匝瑳胤次
* 一〇	軍艦の發達	深谷甫(三月豫定)
一〇	空軍	西原勝
一〇	防空	難波三十四(一・九〇)
三	戰爭指導論	酒井鎬次
四	日本古戰史	大場彌平
五	日本近代戰史	大場彌平
六	ナポレオン戰史	伊藤政之助(一・九〇)
七	西洋近代戰史	伊藤政之助(一・九〇)
八	海戰史上	福永恭助
九	海戰史下	福永恭助
* 一〇	空戰史	吉滿末盛(一月豫定)
三	世界大戰史	中柴末純(二・三〇)
* 三	將帥論	中井良太郎(二月豫定)



460

